

りとして、そこから北を北方と呼ぶ。場合によっては、そこから北極圏内と言うこともある。アラスカ・ハイウエーをどんだん北に向かい、この北緯六十度を越えると、樹林もいくらか低くなってくる。一般的には、野生動物は朝方と夕方によく活動するので、その時間になったらゆっくりと車を走らせて左右に注意すれば、動物の動く姿が目に入るだろう。

カナダリンクスを見た

数年前の冬のある夕方、私はこのアラスカ・ハイウエー上で、カナダリンクスを見た。車の前方二百メートルぐらいの先に、二匹の子連れのツガイが目に入った。まずオスが道路上に現われて、危険がないかキョロキョロしている。やがて子連れのメスが道を横切って行った。このハイウエーでは、一本の高い木の上には止まっているフクロウを見だし、道には巨大なヘラジカの死体がごろがっていた。大型トラックにはねられたらしい。疎林地帯では野生馬の群れも見つけた。野生の馬だけに荒々しく、余り近づけなかった。北西準州の首府イエローナイフに来ると、ブッシュ（森林）もずっと低く、まばらになる。そこはカリブーの住み家でもある。カリブーとは北米にすむ野生のトナカイのことだ。

このシカはオスだけでなく、メスもツノをはやしている。シカのなかまでは唯一の例外だ。メスのツノはオスより小さく、単純な形をしている。カリブーは、

このあたりのが一番大きく、最北にすむペアリー・カリブーが最も小さい。それは食糧となる草やコケの量によるものと思われる。カリブーは、冬は南のブッシュの中にすみ、春になると北に向かって移動を開始する。

カリブーはヘラジカと違って大群をつくる。彼らの最大の敵はオオカミで、カリブーの群れの周囲には必ずオオカミがいると言われる。オオカミは、子供のカリブーや足の弱いカリブーを狙って襲う。カリブーは群れを守るために、弱った個体をオオカミの犠牲にすることもいとわれない。四月頃から移動を始めたカリブーは、ブッシュを抜けて草原ツンドラに留まって子を生む。移動しているカリブーのメスの殆んどが妊娠しているとも言われる。カリブーは政府によって保護されており、北西準州では空から追跡して写真をとることも禁じられているが、大群以外なら、インディアン村の近くでも、道路のわきでも時どき見ることが出来る。

マッケンジー川の岸边に集落をつくっているインディアンは、近くの森林に住む野生動物を主としてワナでとって生計を立てている。リンクス、ウサギ（ヘアー）、ビーバー、マスカラット、キツネ、オオカミ、ミンクが主な野生動物だ。ビーバーは、川や湖、沼に住み、近くのヤナギ、カバ、ハンノキの茂みにダムをつくることで知られている。泳ぎと潜水を特技とし、作ったダムの中にすむ。マスカラットは巨大な水棲の野生ネズミで、

水辺のやぶにすむ。そのマスカラットをねらうのがミンク。森にすむオオカミをティンバーウルフと呼び、草原に多いコヨーテは草原オオカミとも呼ばれるが、本当は別の野生のイヌ科の動物である。

北極動物の王者

森林帯を越えてイヌイット（エスキモー）の住む高緯度北極に飛ぶ。この地方で比較的簡単に見られる野生動物は、ジャコウウシ、ペアリー・カリブー、北極ウサギ（ヘアー）、北極ギツネ、海ではアザラシ、セイウチ、ベルーガ、一角（クジラ）、北極クジラなど。



岩山の近くに住むシロイワヤギ

北極動物の王者と呼ばれるホッキョクグマは、ある一か所を除いて簡単には見られない。その唯一の場所とは、マニトバ州チャールズである。ハドソン湾に面

した小さな町チャールズ周辺には、約六百頭のホッキョクグマが住み、エサを求めて町のゴミ処理場にやって来たり、時には大通りにまで現われる。クマが町に近

づくると警報が鳴って、小さな子供は安全な場所に避難させられる。このクマを見るための観光ツアー（毎年十月）もあって、人々はバスに乗って見物している。

ベルグマン・アレンの法則によると、同じ系統の動物のからだは寒い地方のものほど大きく、球形に近くなるという。ホッキョクグマはそれにぴったりだ。ホッキョクグマも十二月から冬眠に入り、二月上旬ぐらいまで雪穴に入っている。クマの体型がズンズンしているのは、冬よりも関係がある。

カナダの高緯度地方には週二回の定期航空便があつて、楽に行くことが出来るが、野生動物を見るためには、さらにチャーター機に乗りつがなければならない。やはり人の住む集落には、それらの動物は近づかない。

レゾリュートからボデン島に渡る。春ならスキドゥで二日間かかるが、この島に行けば確実にジャコウウシに出会うだろう。現存する動物の中で最も原始的な形態をとどめているのがジャコウウシである。彼らは、常に十一頭ぐらいの群れをつくり、極北の草やコケ、柳（横に延びて生育する）などを食んでいる。オオカミなどの敵が近づくと、十一頭は円陣をつくり、その輪の中に子供をかかす、という独特の防御法を展開する。今世紀の初め、北極探検隊がエルズミア島の北部で大量に捕殺して、一時は滅亡しかけたが、最近ではカナダ政府の保護によって少しづつ増加している。

（探検ジャーナリスト）